

第11回 市民動物園会議

会 議 録

日 時 : 平成23年2月3日(木) 14時開会
場 所 : 円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○原田委員長 それでは、第11回市民動物園会議を開きたいと思います。

きょうは、その前に、チューブスライダーに乗せていただきまして、すばらしい体験をさせていただきました。これは、本当に大人気になりますね。来年もやってくれと言われると困るかもしれませんが、子どもはああいうものが大好きですからね。あれに乗ったら、相当長い間、記憶の中にとどまるのではないのでしょうか。すばらしいと思いました。

まず、理事からごあいさつをお願いします。

○事務局（加藤環境局理事） 環境局理事の加藤でございます。

きょうは、会議の前に皆様方の一働きしていただきまして、まことにありがとうございます。

きょうは、市長が来ていろいろなお話をさせていただきましたけれども、まず、子どもさん方にいろいろな意味で動物園の思い出をつくっていただきたいということが、きょうの形で見えてきたのかなと思っております。来週から雪まつりが始まりますが、皆様方にぜひお越しいただきまして、動物園は一丸となって頑張っていますので、その辺を見ていただきたいと思っております。

それから、きょうは非常に天気もよくて市長も機嫌がよかったですけれども、私は、3時から緊急雪害対策特別会議がございまして、排雪の関係で市長からおしかりを受けなければならなくなっておりますので、途中で中座させていただきます。ことしは、雪が本当に多い中で冬場の事業がいろいろ始まっております。札幌市としては、除雪対策に130億円のお金をかけてやっているところで、このお金自体はそんなに減らしていないというお話をさせていただいていますが、市民の方々にとってみれば、毎日毎日ひっきりなしに雪が降ってくるということで、市民にとって非常に悪いイメージになってきているのではないかとということで市長も心配をしているところでございます。私どもとしては、雪のイメージを少しでもよくしたいということで来週から雪まつりが始まるわけでございますけれども、そういった意味で、動物園も雪まつりの中で市民に対する努めを果たせると思っています。

きょうの議事につきましては、今年度の運営状況や、60周年の記念事業、その他の議事がございます。皆様方には、お忙しい中お集まりいただきましてまことに恐縮ではございますけれども、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○原田委員長 ありがとうございます。

2. 議 事

○原田委員長 それでは、出席者あるいは配付資料の確認からお願いします。

○事務局（酒井円山動物園長） 最初に、配付資料の確認をさせていただきます。

1枚目に次第がございまして、次に、資料1といたしまして、本日の出席委員の名簿がございまして、次に、資料2-1としまして、平成22年度入園者の状況、4月から1月と

いうものでございます。次に、資料の2-2が主な新着動物の出産の状況、主な転出動物の死亡状況がございまして、資料2-3としまして、エゾヒグマ館に係る対応状況等についてという資料が1枚ございます。それと、2-4がホッキョクグマの出産等についてという資料でございます。最後は、資料3の60周年事業計画案がございまして、以上が本日用意いたしました資料でございます。

冒頭に、私の方から一言おわび申し上げます。前回、9月に第10回市民動物園会議を開催させていただきまして、その中でも60周年事業についてご議論をいただきまして、内容等がまだまだ不十分というご指摘をいただきまして、一度、議長、副議長、金澤委員を初めとしまして委員の先生方からいろいろご意見をいただいたものをいったん昨年末に取りまとめまして、本日の主な議題としましては、今年になりました60周年事業計画案についてご議論をいただく案をつくらせていただきましたので、こちらの方の審議をよろしくお願ひしたいというのが、本日の会議の趣旨でございます。

それではまず、資料に基づきまして、私の方から最初に22年度の運営状況等の報告について説明をさせていただきたいと思っております。

資料2-1、平成22年度入園者の状況4月から1月という資料をごらんください。これは、9月の段階でもご説明申し上げましたが、現在、前年比約10%減の76万991人です。これは1月までの数字でございます。前回は説明させていただきましたが、4月、5月につきましては、特に4月から5月のはじめにかけてまして、この時期としては非常に寒い雨、雪の多い時期が続きまして入園者の伸び悩みがありました。ゴールデンウィークの中盤以降、天候が回復いたしまして頑張りましたが、それでも前年の21年度には及ばなかったということでございます。一転しまして、6月に関しましては、21年度よりは天候も非常によくなりまして、こちらは前年度を上回る数のお客様に来ていただいております。

7月、8月につきましては、全国的に猛暑でございましたが、そういう影響もあってか、7月、8月につきましては、円山動物園の入園者も前年には及ばなかったところがございます。9月には、天候も回復したということと、先ほど先生方にも行っていただきましたキッドランドの閉園記念のイベントといいますか、500円乗り放題というものも効果がありまして、前年を上回るようなお客様に来ていただいたのが9月でございます。10月につきましては、ほぼ前年並みでございますが、7月に生まれましてレッサーパンダの赤ちゃんの一般公開を10月の頭から行ったということもありまして、前年を上回ってございます。問題は11月以降でございますが、11月は前年をやや下回る数字でして、12月と1月につきましては、前年を大きく下回る数字になってございます。これにつきましては、一つは、ここ数年、広報さっぽろに無料クーポン券をつけておりました。去年は駐車場のクーポン券をつけておりますけれども、ことしは雪まつり期間にお客様に対しての感謝の気持ちを含めて無料にすることがございましたために、無料クーポン券については実施いたしませんでした。そういったようなことで、今までの例を見ますと大体3、

000人から4,000人程度の影響もあったのかなということでございます。この先、まだ、2月、3月がでございます。2月につきましては、先ほど現地をご視察いただきましたが、7日から始まりますスノーフェスティバル等、それと、3月につきましては、昨年やらっております感謝イベント等を考えておりますので、こちらの方で、少しでも昨年度に近づくような集客を目指していきたいというふうに、今現在、考えているところでございます。入園者の状況については、以上でございます。

続きまして、新着動物出産の状況についても続けてご説明させていただきたいと思っております。前回は9月でしたので、9月以降の動きでございます。まず最初に、9月10日と27日の2回に分けて、アルダブラゾウガメの雌のキクとウメが2頭来園しております。これは、今、建設中で、4月中旬にオープンを予定しております新は虫類・両生類館の中の一つの目玉動物として先駆けて導入したものでございます。キクについては推定20歳、ウメについては推定15歳でございます。

続きまして、9月16日、野生復帰施設の方です。これは、一般公開しておりませんが、繁殖を目的とした野生復帰施設の方に、オオワシの雌が旭山動物園から来園しております。こちらの個体につきましては、一昨年の4月生まれでございますので、ことしの4月がきて2歳ということでございます。この繁殖ペアとしましては、当園で2000年3月に生まれております、現在10歳の雄とのペアリングを開始しております。まだ、性成熟に達するまで雌の方が時間がかかると思いますが、今現在は、順次、ならしている状況でございます。

それから、10月22日に、札幌市と韓国大田広域市が姉妹都市提携をいたしましたので、その記念ということで、ブチハイエナの雄のカムトリと雌のカミが来園しております。カムトリにつきましては2008年生まれの2歳、カミに関しましては2009年の1歳ということでございます。まだ屋外には出しておりませんので、春に暖かくなってから屋外での展示も予定をしております。

それから、10月7日に、グラントシマウマの飛馬が釧路動物園から来園してございます。当園のシマウマは、長いこと雌のスモモと雄のシンゴというペアでずっときておりましたが、一昨年の11月に雄のシンゴの方が死亡いたしまして、スモモの方が非常に寂しい思いをしていた。隣のダチョウが掃除で外に出されると寂しがって騒ぐというようなことも続いておりましたが、そういったこともありまして、釧路市動物園の方から2009年7月生まれのグラントシマウマの雄ということでした。スモモの方が24歳でございますので相当年齢差がありますが、この先、同居させていきますけれども、繁殖を目的としている展示ではありませんので、この先、アフリカ館ができるまでには、飛馬のペアとなる雌を探して導入する予定でございます。

それと、今年うさぎ年ということがありまして、昨年末11月13日と1月9日の2回に分けて、こども動物園の方に干支展展示用にウサギを3種6点入れてございます。ホーランドロップ、これは耳の垂れた非常に人気の高い種類のウサギでございますが、こ

れが2頭です。それと、非常に大きなフレミッシュジャイアントが1頭です。それと、飼いうサギの中では最小種のネザーランドドワーフを3点入れております。ネザーランドドワーフは、有名なピーターラビットのモデルとなっているウサギでございます。これを11月、1月と導入しまして、お客様からは非常に好評を博しているところでございます。

それと、エランドのつがいブッチョとラッシュに、今年も赤ちゃんが誕生いたしました。これは、11月22日でございます。このつがいには、2009年3月3日にヒナという雌の赤ちゃんが生まれておりますが、昨年4月に東北サファリパークへ移動させておまして、このペアからの2頭目の赤ちゃん誕生ということでございます。

それと、12月16日に、多摩動物公園の方からアムールトラのリングが来園してございます。この所有は釧路動物園になりまして、非常に人気になりました例のタイガとココアの父親に当たる雄でございます。昨年は多摩動物園の雌とペアを組んで、3頭の繁殖に成功しているという個体でございます。当園では、12月16日にアイとペアを組んでございます。アイは、長らくタツオという雄とペアでございましたが、妊娠、出産には至りませんでしたので、後ほどご説明いたしますが、今回タツオの方はおびひろ動物園に移動させまして、新たにリングとペアを組んだところでございます。ちょうど先週ですが、1月24日から26日にかけてまして頻繁に交尾行動が確認されております。トラの場合、6週間に1度発情がくるということで、大体3月中旬、10日前後に再度発情がくるかどうかというところの見きわめで、もし発情がこなければ妊娠している可能性が非常に高くなるということで期待を持っているところです。無事に妊娠、出産ということになると、ゴールデンウィーク明けの5月中旬くらいというところでございます。

それと、12月25日、ちょうどクリスマスの午後でございましたが、待望のホッキョクグマのララとデナリに赤ちゃんが誕生いたしました。これについては、別資料で後ほどご説明したいと思います。それから、1月6日から29日にかけてまして、今年もリスザルに赤ちゃんが誕生しております。現在は4頭でございます。当園の場合は、大体12月から2月にかけてましてリスザルの赤ちゃんが誕生しまして、今年も既に4頭ということで、昨年並みになれば、また10頭近くの誕生も望めるのではないかと考えてございます。

それと、1月19日、31日と、ハイイロカンガルーの赤ちゃんが2頭誕生してございます。誕生と申しますか、初認という言い方をしておりますが、お母さんの袋から顔を出した状態を誕生と位置づけておまして、それが1月19日と31日ということでございます。飼育員のアイデアで、初認日を当てましょうということでお客様に募集しまして、31日に生まれた方の赤ちゃんの予想ですが、123通の応募がありまして、そのうち2名の方が正解ということで、正解者の中から愛称を決めていただくというような企画にしております。

こども動物園の方で、1月23日にスーパーミニホースのさとし、しずまに赤ちゃんが誕生いたしました。現在、まだ性別は不明でございます。まだ未公開でございますが、1月23日、ちょうど10日ほど前に赤ちゃんが誕生しております。

誕生と新着動物については以上でございます。

続きまして、主な転出と死亡の状況についてでございます。10月7日ですが、白鳥池を解体することに伴いまして、オオハクチョウとハイイロガン等の11羽を旭山動物園へ移動させております。

それから、11月6日にニホンザルの雌のどん子が死亡しました。推定年齢22歳ということで、高齢が原因かということでございます。

それと、これにつきましては、後ほど別資料でご説明いたしたいと思っておりますが、エゾヒグマの雄のカステラという昨年生まれのヒグマの子どもでございますが、11月13日、雌のとわたの抗争によって死亡するという事故が起きました。これについては、後ほどご説明させていただきたいと思っております。

それから、11月14日、ユキヒョウの雌のユッコという一昨年生まれの個体が、多摩動物公園へ移動しております。これは、雄のお父さんのアクバルを多摩からブリーディングローンで借りてございまして、その契約に基づいて、雌であったユッコについては多摩への帰属という契約に基づいて移動したというものでございます。

続きまして、11月の19日、ブラッサグエノンという非常に立派な美しいサルでございますが、こちらの光圀、ちょうど白いひげが水戸黄門のような風貌の個体でございましたが、呼吸器系の疾患と思われるもので死亡してございます。12歳でございました。

それと、12月8日には、ニホンザルの雄の中サシが死亡してございます。こちらは、推定で25歳ということでございます。

円山動物園では、今後のニホンザルの繁殖につきまして、今、雄の避妊処置をしているために新しい個体をどう入れていくのかということで、形成された群れの中に別の群れから個体を入れることは難しいため、現在、人工授精にチャレンジをしております。まだ、成功はしてございませんが、今後、こうした、この群れの中で、人工授精によって個体数というものを維持していくというチャレンジを始めているところでございます。

12月10日、ユキヒョウの雄、ヤマト、先ほどのユッコと2頭ツインズで生まれたものでございますが、こちらの方は旭山動物園の方へ移動してございます。ヤマトは、当園に帰属いたしました。旭山動物園の新たな雄といたしましてブリーディングローンでの貸し出しという形でございます。

それと、12月14日、先ほどご説明いたしましたが、アムールトラのアイとのペアでございましたタツオにつきまして、リングとアイの繁殖を優先させるという種別調整者との話しになりましたことから、タツオについてはおびひろ動物園の方に移動することになってございます。

それと、12月15日には、エゾシカの雄の勇が死亡いたしました。推定で15歳以上でございます。原因といたしましては、老衰による心不全ではないかというふうに獣医としては判断しているところでございます。

新着動物については、以上でございます。

先ほど申しました2点につきまして、エゾヒグマ館に係る事故のご説明を続けてさせていただきたいと思っております。これにつきましては、11月13日の午後でございましたが、当時、昨年4月にエゾヒグマ館がオープンしてございますが、当初からいる、のぼりべつくま牧場から参りましたとわという当時2歳の雌と、今年の8月に三笠市の桂沢湖周辺にて保護されました雄のカステラというゼロ歳の熊を飼育しておりました。とわの方は、2歳でございますので、130キロ程度の体格であるということです。カステラの方は、恐らく、死亡時は25キロ程度だったと思っておりますが、非常に体格差もあるということで、カステラの成長を待って、将来的には体格差がなくなった段階でのペアリングということを担当としては考えておりました。それまでは、別々に飼育、展示をしているということで、展示用のメインの放飼場とバックヤードのサブの放飼場を交互に使い分けて、午前中は雌のとわを展示、午後は入れかえてカステラを展示というふうにしておりました。

この二つのメインとサブの放飼場は、高さ3.7メートルの鋼鉄製の柵で仕切られておりまして、クマの入れかえについては1頭を室内の寝室に入れまして、その間に鋼鉄製の柵に設けたくぐり戸、カウンター扉と申しておりますが、それを開閉して移動させていたということです。当日、午後でございましたので、メインの放飼場の方にはカステラがおりまして、雌のとわの方はサブの放飼場におりました。メインの放飼場に、午後4時半くらいだったと思っておりますが、閉園放送がかかる間際くらいにとわがメインの放飼場でカステラと同居している状態になりまして、お客様からの通報で飼育員が駆けつけたところございます。直ちに、通報により飼育員が駆けつけて、観覧を中止するとともに、放水等により2頭を引き離しとわを室内に收容しましたが、かんだ傷が非常に深かったということで、ゼロ歳の雄のカステラの方は死亡していたということでございます。

その後、私ども動物園と施工を担当しました建築部双方で事故の検証を行いました。その結果、鋼鉄製の柵は3.7メートルの高さがございますので、クマがその上を乗り越えた形跡もないし、乗り越えられないという結論でございまして、唯一残されているのが、カウンター扉をとわが持ち上げてくぐり抜けたという内容でございます。

絵を見ながら説明しますと、サブ放飼場がこちらでございまして、メインの放飼場はここです。当初、雌の方がこちらにいて、雄の方がここで遊んでいた。何らかの形で雌が進入してきて、ここの洞穴のところでかんでしまって雄の方が死んだということです。カウンター扉というのはここでございまして、飼育員が中からハンドルレバーを持ち上げて上に上げて、手元でロックをかける形になっています。一般の動物園のドアは、かんぬきで、直接目で見て、棒がきっちりそこに刺さるのを確認できるようになっています。ところが、これは非常に複雑な放飼場の構造でございまして、実は、キーパーがここにいて、このドアを横目で見ながらあけなければということで、今までなかった構造のドアをつくっておりまして、手元でロックがかかっていたように見えても、実は鍵の不具合で、この鍵も屋外にありますのでカバーをしてあって中がどんな状態になっているかが見えない構造になっております。飼育員が駆けつけたときに、手元だけを見てロックがかかっているかどうか

かを確認せざるを得なかったのですが、それは2名で確認して、確かにロックはかかっていた。ところが、その後の検査で、ロックがかかったように見えてもロックがかかっていない状態が起り得ることがわかりました。その場合、クマがこの隙間につめを入れて持ち上げて、鼻を入れて、頭を入れて抜けるということが確認されました。

私どもとしましては、これはきちんと目で確認できる構造にしなければならないということで、ここの構造もメッシュ状にして、同じようにかんぬき状にしてちゃんとドアを貫いて、しっかりロックがかかっていることを飼育員が目視で確認できるような構造に変えてもらうよう建築部と協議しました、今、その改修工事をしております。ですから、事故がありました11月13日以降、ここを閉鎖しておりますが、恐らく3月の中旬くらいにはこの改修工事が終わると思いますので、その上で展示を再開したいと考えてございます。

私どもとしましては、成長が楽しみであった動物を失うことになり大変申しわけなく思っておりますし、今後、新しい展示施設のアジア館を考えるときにもこの教訓を生かして、安全対策を十分やっていくということを肝に銘じたところでございます。

エゾヒグマ館に係る対応状況については、以上でございます。

(1)の最後のところですが、先ほどホッキョクグマの出産のところまでご報告をさせていただきたいと思っております。

ホッキョクグマのララですが、12月25日の3時過ぎに待望の赤ちゃんを出産し、1頭が順調に成育中です。ここにつきましては、11月からいつものように世界の熊館を立ち入り禁止にしておりまして、飼育員も出産まではずっと中に入らないような静穏な状況を保ちつつ、見守っております。ツインズのとかが12月9日でございますし、これまでのピリカのとかが12月15日ということで、出産としてかなり遅い状況でございまして、一時は今年はだめかなというところもございましたが、12月25日に無事生まれまして、現在40日目を迎えているところですが、サーモカメラの映像を通して順調に生育している様子が確認されております。恐らく、現在の大きさは、他の動物園の人工飼育の個体を参考にすると、大体5キロ前後で、ちょうど目があき始めるくらいかなというところでございます。

今後のスケジュールですが、過去の出産よりも10日から2週間ほど遅かったので、前回のイコロ、キロルの公開が3月20日でございましたが、今回は恐らく4月の第1週くらいになるのかなと思っております。基本的に運動能力がついて、カウンター扉の前の仕切りや階段を自分で乗り越えて、出たり入ったりできるくらいの体力がつくのが一つの公開の目安というふうに考えております。今回の公開は、順調に行きまして、恐らくそのくらいになるのではないかなというふうに考えてございます。

ホッキョクグマにつきましては、昨年の会議の中でもご報告させていただきましたが、道内の4園館で協力して移動して、今回もデナリと釧路動物園のクルミのペアリングがうまくいったことを受けましての移動、それに伴って乳離れをさせるためのイコロとキロルの帯広への移動、それに伴ってのピリカの円山への移動、デナリと相性が悪かったサツキ

を旭山動物園へ移動させて新たなペアリングを試みたということでございます。結果としましては、今回、また出産まで至ったのは当園だけということになりますが、これまで交尾すら確認できなかったところを複数のペアがそういうことを確認しておりますので、今年度につきましても、今、種別調整者の旭山動物園と協議をさせていただいております、今年度はどういうフォーメーションで繁殖に望むのかということ、まさに今、議論をしているところでございまして、近々にその辺も発表できるような状況になろうかというところでございます。

非常に長くなりましたが、私からの説明は以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、早速でございますが、平成22年度の運営状況等の報告について、何かご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

昨年が92万3,503人ということで、今年は76万人プラスアルファで80万人超えはするのではないかという見込みのようでございますが、ひよっとすると、スノーフェスティバルで予想以上に客足が伸びるということもあろうかと思えます。

○服部副委員長 スノーフェスティバルの入場者数は、どのくらいをはじいておられるのでしょうか。

○事務局（酒井円山動物園長） 本当に未経験なものですからはっきり申し上げられませんが、大体の目算としては、平日5,000人くらい入っていただけないかと思っておりますが、これも天気次第です。それから、後半に3連休がございますので、1万人程度入っていただければ動物園としては画期的かなというところでございますので、トータルで5万人くらい来ていただけないかと、そのくらいのつもりで準備しているところです。

○服部副委員長 入ってくださるとありがたいですね。多分、大丈夫でしょう。

○事務局（高橋調整担当課長） 今回、スノーフェスティバルの入園者数の伸びを求めまして、初めての取り組みなのですが、シャトルバスを出しております。札幌駅前からですが、札幌駅前を出発しまして、ホテルニューオータニの前、丸井今井の前、5丁目、8丁目、11丁目、円山公園駅を經由してここまでです。これを平日15分間隔にして、休日につきましては10分間隔で朝8時半から夜8時半までJRバスのシャトルバスが走るという初めての試みをしております。この輸送能力の部分を踏まえて、入場者数が増えていくことを希望したいというふうに考えておりますし、今後、この取り組みをJRバスとも連携して行って、ゴールデンウィークとか夏の繁忙期に、環境にも配慮できると思えますし、来ていただけるチャンスが少しでも増えていくと思えますので、こういった取り組みを継続して進めてまいりたいと考えております。

○事務局（酒井円山動物園長） 後ほど、60周年の中でもご説明しようと思っておりましたが、今回、冬場の対策として、まず、動物園があいていて、冬の動物は元気で楽しいのだということを市民に知っていただくということで、そのきっかけづくりとしての今回の企画でございまして、やはり、チューブスライダーとか滑り台に何時間に並んでもらう

というのは本来の趣旨に反するというので、今回は時間指定券を発行させていただいて、お客様が列に並ぶ時間を極力短くさせていただいて、あいている時間に関しては動物園の中をぜひ自由に散策していただきたいというふうに考えておりますし、これに合わせてドキドキ体験等もいろいろなところで飼育の方も頑張っていて、このときに合わせてやりたいというふうに考えております。

○原田委員長　これが、円山動物園の新しい冬の姿になれば、今後いろいろな展開が期待できるのではないかと思います。

それでは、次の資料の新着動物出産等の状況についてです。ホッキョクグマの赤ちゃんが生まれたということですが、これを見ることができるのは、今年度中は難しいようで、4月以降ということですので。みんな心待ちにしているところだと思いますけれども、本当によかったなと思います。

○林委員　新着動物の出産状況とか死亡の状況が非常に詳しくわかったのですけれども、この中で新聞とかテレビに取り上げられたものは何かということをお教えいただきたいのです。私は、この委員になってからこういうものをチェックしているのです。

なぜかという、動物園には、命を預かっているところでありながら、死んだ、生きたを隠す傾向が結構あります。やはり、市民の財産と言うならば、むしろ堂々と出して大事にしていくというふうにしてほしいのです。事故の件に関しては、別段、よくあることではあるけれども、留意をして何とかするというのも含めてやることによって変わっていくと思います。

実は、よくあるのですけれども、マイナスのイメージを与えるというふうに素人は考えがちなのです。逆に言えば、トラブルがあったときに企業は正直に謝るということと同じように、誕生では喜び、死亡した理由を挙げ、なおかつそのことについて真摯に向き合っているという姿勢を見せることによって、その園、飼育の人たちを含めてどういう姿勢でやっているかということが、実は自然と伝わってくるというふうに思うのです。

そういう意味で、これくらい必死になり広報するという事は、非常に大きな情報なのです。これは相当な数だと、びっくりするほどお忙しかったなと思うのですけれども、逆に言えば、実はマスコミとしては取り上げられる、あるいは出してくれと頼んでも拒否できないものでもあるのかなと思うのです。特にテレビ的ではないのが残念ですけれども、どんなものかなと思ったのです。嫌な質問で済みません。

○事務局（酒井円山動物園長）　基本的に、ここに載せているものについては、すべてプレスリリースしているというふうに考えていただいてもいいと思います。

新聞等で取り上げてもらったのはどのくらいかというのは、9月10日のゾウガメについては出ています。それから、先ほどの新着動物の方ですけれども、オオワシの雌については、非公開施設ということで、プレスしていません。それから、ブチハイエナは、姉妹都市との関係もありまして、出ました。シマウマについては出ています。ウサギは、いろいろなところで再三取り上げていただきましたので、これは出ています。エランドについ

ては、出しているけれども、ニュースにはならなかったということです。アムールトラの雄のリングは出ています。ホッキョクグマのデナリ、ララも出ています。リスザルの赤ちゃん誕生については出ています。それと、ハイロカンガルーについては、出しましたけれども、出ませんでした。スーパーミニホースについては、まだ出していません。プレスしていないということです。

○林委員 死亡はどうですか。

○事務局（酒井円山動物園長） 死亡の方は、プレスリリースは全部しておりますが、掲載されたのは、一番最初のハクチョウの旭山への移動と、エゾヒグマのカステラは大きく取り上げられました。14日のユキヒョウが多摩へ行くのも出ました。ブラッサグエノンとニホンザルの中サシは出ていません。ユキヒョウのヤマトが旭山へ移動したのは出ました。アムールトラのタツオをおびひろ動物園に行ったのは出ました。

○林委員 結構出ているのですね。

できれば、ここに取り上げられていないものをなるべく資料として出して、マスコミの扱いとしては、これだけ取り上げてくださってありがとうございます、ついでには、こういうリリースもぜひ取り上げてくれ、市民からも云々だというきっかけになさったらいいのではないかと思うのです。つまり、これだけ丁寧に発表されたのに、残念ながら、幾つかですけれども、非常に確率が高いですけれども、大事にしているということを伝えると、それだけ、円山の露出度が高くなりますし、大切にしているということもわかると思います。その中で、記者も非常に打たれる人間が中にはいると思いますので、大事にしようという人たちもいると思います。そういう中で細かいニュースが伝えられると、記者も書く気になるということがあります。マスコミ人として言うと、それはヒントになるのかなと思いましたので、今後もぜひ頑張ってください。

○事務局（酒井円山動物園長） ありがとうございます。

○原田委員長 次は、エゾヒグマ館事故に関して、何かご質問等はございますか。

○田中委員 カステラは3回ほど見に行きまして、とっても小さくて丸っこいかわい子だったので、この事件はショックでした。せめて、エゾヒグマ館に、カステラの名前の由来とか、保護されたときの状況とか、そういうことを張り紙系のものでお知らせしていただければいいなと思いました。

○原田委員長 そのようにしていただければと思います。

○事務局（酒井円山動物園長） 考えます。

○原田委員長 ほかによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○原田委員長 それでは、（1）の運営状況等の報告については、これで終了させていただきます。

きょうは3時半までの予定でございますので、ご協力をお願いしたいと思います。

2番目の開園60周年記念事業について、A3判の資料が出ておりますので、まず、こ

れについて説明をしてください。

○事務局（酒井円山動物園長） 冒頭申し上げましたように、委員長を初め副委員長、それと金澤さんからご意見をいただきまして、整理し直したものがこの資料でございます。

まず、基本的な考え方といたしまして、この60周年を迎える23年度というのは、この基本構想、基本計画の中に出てきます集中取り組み期間の最終年という形で位置づけられております。このことから、私どもはこの60周年事業を集中取り組み期間の総括と、次のステップへの基礎固めの事業であるという位置づけで考えていきたいと思っております。この基本計画の中に整理されております、存在意義を高める、特徴づけを際立たせる、集客施設としての実力を高めるという基本計画の中のそれぞれの視点の事業として実施して、動物園が次に目指す方向へとつなげていこうということを60周年事業という形で位置づけてございます。最初に、動物園の存在意義を高める事業として五つ挙げさせていただいております。

まず最初は、都市における生物多様性と生態系の保全に係る調査事業ということです。これにつきましては、調査費用として100万円を予算要求しております。内容としましては、昨年、生物多様性元年とも言われ、非常に関心も高まったところでございますが、これから札幌というまちづくりを考えていく中で生物多様性にどう向き合っていくのかということや大学や地域市民と連携して考えていくと。都市の生物多様性を実感できる観覧会であったり生物調査など体験プログラムを実施して、結果について情報発信を動物園から行っていこうというところでございます。私どもと一緒にパートナーとしてさせていただいております酪農学園大学とか、市立大学とか、そういうところと連携してこの事業に取り組んでいきたいということで、現在、予算要求をしているところでございます。

次に、2番目といたしまして、種の保存に向けた繁殖機能の充実というところでございます。この種の保存機能をノアの箱舟の機能というふうにも言っておりますが、円山動物園にとって非常に重要なものというふうに考えております。これまで、動物に関する国際的なデータバンクである国際種情報システム機構（ISIS）に加盟してございませんでした。ホッキョクグマの血統交換ということを目指して海外とも交渉する中で、こうしたものに参加するということは必須だろうということで、来年はISISに円山動物園もぜひ加入をするという方向で、今、予算化を図っております。現在、全国の動物園の中でこれに加盟しているのは上野動物園と多摩動物園、天王寺、東山、それと埼玉県こども動物自然公園などの八つだけでございますが、円山動物園としてもこういうところに加盟することにより、海外動物園との交流推進、動物交換を進めていく礎にしていきたいと考えております。

それから、60周年記念講演、展示ということで、主に環境をテーマとする記念講演、展示を積極的にやっていきたいと考えてございます。生物多様性であったり、ホッキョクグマ、象、こうしたことをテーマに環境を考える連続講演をやっていきたいと考えております。そのほか、円山動物園の歴史を伝える事業、展示であったり、映像、アーカイブス

ということをもう既に募集もかけておりますが、そういうことも積極的にやっていきたいと考えております。また、獣舎等における展示の説明についても、見やすさや内容について再度精査して、60周年を契機に新たなサインというものもやっていきたいと考えております。

次に、平成23年の4月中旬になろうかと思いますが、今、建設中の新は虫類・両生類館がオープンいたします。このオープンを通じまして、は虫類、両生類の希少種の展示、繁殖を通じて生物多様性の重要性を表現し、その動物たちの生息域の環境問題を考えるきっかけを提供するというのをやっていきたいと思っております。このオープンに合わせて、著名な先生の記念講演、アート展も企画していきたいと考えております。オープン記念は、オープンと合わせるような形で春からゴールデンウィークにかけて、アート展は、やはり秋口に、は虫類館を舞台に展開していきたいと考えているところでございます。

続きまして、日本動物園水族館協会の全国会議の中で、第59回の動物園技術者研究会を円山動物園で実施することが決まっております。日程的には10月の初旬になろうかと思っております。これに合わせた企画や講演会等もやっていきたいと考えてございます。この辺については、原田学長からもさまざまなアドバイスをいただければと考えているところでございます。

次に、緑色のところですが、円山動物園を特徴づけ際立たせる事業という位置づけでございまして。

まず、円山動物園の森・緑の観察会の実施、さけ科学館との連携事業の実施ということでございます。動物園の森とさけ科学館の連携ということで、昨年、COP10の時期の10月でございますが、動物園の森とさけ科学館と共同で、地元で生息する動物、植物、魚、鳥類といったパネル展を実施してございます。今年度は、連携をより深めまして、円山地域を取り巻く自然環境や水棲生物を題材に、広く生物多様性確保の基地を実現するためにこの連携というものを深めていきたいというふうに考えてございます。具体的には、共同のイベント等をやっていきたいというふうに、今、両方で話をしているところでございます。

続きまして、二つ目の円山動物園が取り組む各種事業を説明するパンフレット等の作成というところでございます。これは、現在、私どもがつくっておりますパンフレットは、園内を案内するものはございますが、そのバックヤードで展開されているホッキョクグマの繁殖であったり、野性復帰ゾーンの活動であったり、そうした各種事業を説明するパンフレットがございませんでしたので、60周年を契機に、総合的に円山動物園を紹介できるような事業説明書を整備したいと考えているところでございます。

次に、右側の一番上のところでございますが、円山エリアの中核施設としての発信と研究ということで、これも、市民会議の委員の皆様には再三ご指摘をいただいているところでございます。動物園に至る交通アクセス等の課題について、現在、私どもも交通局や公園管理というところと協議を開始しております。動物園に至るアクセスだけではなくて、

動物園も含む円山公園全体の魅力向上のために、こうした機関が連携して、魅力アップのための取り組みをしていきたいということで、今、具体的なプランも幾つか挙がっておりまして、何とか60周年のうちに、皆様からお褒めいただけるようなものを一つつくりたいということで、今、努力をしているところでございます。

次に、動物の魅力を深く伝える取り組み及び教育普及の充実強化というところでございまして、具体的に二つ挙げております。一つは、円山動物園の特徴の一つであります、みんなのドキドキ体験メニューというものをより一層充実させていきたいと考えています。これは、日々、飼育員等のアイデアにより更新をされてございますので、これも60周年を契機に充実を図っていきたいということでございます。あとは、入園者閲覧用の図書も、私どものところで、既にかんりの蔵書がございまして、かなり痛んだり陳腐化しているものもございまして。今回、これにつきまして、22年度補正予算を使って新規の図書購入ということが可能な状況でございますので、市民の皆様にはぜひたくさん読んでいただけるような新規の図書の購入、更新をこの機会にやっていきたいと考えております。

それから、アニマルファミリー制度の拡充ということで、これは前回の会議の中でも言いましたが、持続可能で支援しやすい制度への移行、あわせて対象動物の拡充、ファミリーの増大を図るというところでございます。例えば、アムールトラであったり、ユキヒョウであったり、ファミリーに入っていない動物のファミリーになりたいという市民要望も強いという現実もございまして、現状のアニマルファミリーの中で毎月、毎月飼育員が会報を書いておりますが、動物によっては非常にネタに苦しむようなものもありますし、お誕生会、感謝祭という年2回のイベントについてもかなりマンネリ化してきているという話が職員の議論の中で出てきております。こうしたことを打開し、また、もっと幅広く市民にご支援いただけるような制度をこの60周年を契機に、これまでやってきたことを踏まえて移行しやすい制度をつくっていききたいと考えているところでございます。

次に、青いところですが、集客施設としての実力を高める事業ということでございます。

まず、おもてなし事業の実施ということで、来場者の魅力アップとしておもてなしのサービスを充実し、より客層を広げ、リピート率を上げ集客を確保するということです。そのために何をするかということですが、一つは、園内の案内表示ということで、既に昨年末に第1弾を竣工しておりまして、園内看板について、原田学長の市立大学にいろいろお手伝いをいただき、見やすい表示ということを工夫してございます。それから、その案内表示と連動する見やすいパンフレットの作成ということで、外国語対応も含みまして多言語化も来年度はやっていきたいと考えてございます。また、園内放送も充実させるということで、今、英語の案内放送を始めております。一部、トビのフリーフライトに関しては、外国の方も非常に多くなっているということもありまして、英語によるフリーフライトの案内ということも既に始めているところでございます。来年度は、これをさらに充実させていきたいと思っております。また、リピート率を上げていくということで、季節感のある園内装飾等の実施ということで、春、夏、秋、冬それぞれに応じた動物園の魅力アップをやっ

ていきたいと思ひますし、その次にありますような春まつり、かがやく夏の動物園、命の感謝祭など季節ごとのイベント、季節らしさを出したイベントをあわせてやっていきたいと思ひます。そして、今年度につきましては、たまたまといひますか、キッドランド跡地の2.6ヘクタールの空き地がありましたので、私どもの大きな課題の一つである冬の動物園を知っていただくためにことしのスノーフェスティバルは規模を拡大して、皆様にご協力をいたひいて、今、実施しているところでごひいます。この辺は、後ほど高橋課長から補足で説明をしてもらおうと思ひます。

それから、サポート制度の充実というこゝで、現在、動物園ガイドボランティアと動物園の森のガイドボランティアがいらっしやいますか、このガイドボランティアを核としまひして、市民等が動物園の各種業務をもっと幅広い形でサポートできるような制度にできないかというこゝで、今後はボランティアの方と協議も進めていきたいと考えてごひいます。

最後は、連携事業の推進というこゝで、円山動物園は、今申しましたように、多くの企業、団体と連携し、それに支援をしていただくこゝによって成り立っております。この60周年に関しまひしても、各種事業をこゝした団体、企業と連携しながら積極的に推進してきたいと考えております。こゝういふ中で、先ほど上田市長もちらっとお話ししてはりましたが、JCという団体もことし60周年というこゝで、円山動物園を1年間支援してきたいというこゝで、冬のスノーフェスティバルでは、延べ130人を超えるボランティアを出していただひいて、氷の滑り台のところをサポートもしていただひいておりますし、夏には象を呼びたいという企画もお持ちだというこゝでござひいます。こちらに関しまひしては、今、調整中というふうに聞いてはりますが、具体的にこの先どう進むかというのは我々もわからないところでごひいます。夏に、昨年やりましたキッズタウンについても積極的にご支援していただひけるというお話をいただひいております、これらをあわせてキッズチャレンジというふうにJCでは呼んではりますが、1年間を通じて60周年記念事業で円山動物園を支援したいというこゝもおっしゃっております。JCに限らず、現在、さまざまところが60周年に向けて、資金協力も含めて協力を申し出ているところでごひいます。

私の方からは以上でござひいますが、スノーフェスティバルの概要について、高橋課長から補足説明をいたひします。

○事務局（高橋調整担当課長） スノーフェスティバルにつひきまして、会場を見ていただきました委員の皆様はご承知かと思ひますけれども、通常で行われております円山動物園スノーフェスティバル実行委員会の皆様にお手伝ひをいただひている氷の滑り台につひきましては、既に1月31日から実施をさせていただひいております、連日、たくさんのお子様にご利用いただひている状況ですが、こゝは2月13日まで継続をされて行われます。それから、例年行われてはりますがミニ雪だるまづくりは、2月5日と6日の両日にボランティアの皆様のご協力をいただひいて、市民の皆様とミニ雪だるまづくりを行うというこゝで、これはレストハウス裏で実施をされます。

もう一つは、チューブスライダーが例年あったのですけれども、それを今回は特設会場の方で大きく実施をするということで、今回は特設会場側で、先ほどお話をさせていただきましたが、岩田地崎建設様のご協力をいただいて180メートルのチューブスライダーを2レーン準備させていただいております。こちらの雪は、1月19日に、中央区の緑丘小学校周辺の排雪をしていただく雪を、雪対策室と中央土木にご協力をいただいて動物園特設会場の方に持ち込みまして、若干、大通会場よりは色がくすんで見えるのですけれども、私たちの場所であれば、大きな構造物ではございませんので、環境にも、それから地域の雪を地域で解消していくというアイデア出しの一つとしてご提案させていただいて、受け入れをさせていただきまして、今回こちらの方で活用させていただきました。ですから、雪の搬入につきましてはお金がかからずに済みまして、大きなチューブスライダーの基本的な工作につきましても岩田地崎建設様のご支援で、ほぼ資金を使わずにこれらのものを建設できたという状況になっております。

そのほかは、キッズ滑り台、かまくらコーナー、小雪像、これらのものにつきましては、実行委員会の方で安全性を保ちながら実施していくということで、今、制作が順次進められておりまして、6日にはでき上がり、7日からオープンさせていただくということで準備を進めさせていただいております。2月7日から13日までの期間につきましては、動物園は9時から5時まででございますが、無料開放をさせていただきます。より多くの方に冬場の動物園の魅力を感じていただくには来ていただくことが大事だということで、無料開放をさせていただいて多くの方を迎え入れてまいりたいと思っております。

特設会場の方につきましては、この期間中、夜の8時までオープンいたします。実は、チューブスライダーは、かなりたくさんの方に来ていただくと滑り終わらない可能性もございますので、時間は多少長目の設定をしております。夜間はライトアップ照明、イルミネーション、こういったもので装飾された美しい照明が設置されます。そういう部分でも楽しんでいただけるものとなると思います。

それから、先ほど申し上げましたけれども、実は初めての取り組みであるシャトルバスの運行です。こういう繁忙期には大量輸送が必要になりますので、シャトルバスの運行は、アクセスの改善の一つとなると思いますし、実は北海道神宮ともお話をした中で、こういう取り組みがうまく機能すれば、ぜひ正月にはまねをさせていただきたいというお話もいただいておりますので、そういったところで連携して、こういったものが活用されていくと交通アクセスの改善の一つにはなっていくのかなということで、今回の取り組みをぜひ成功させてまいりたいと思っております。

それと、交通規制の関係ですが、最後の3日間はお休みが連続します。11日、12日、13日の期間につきましては、西警察署との調整の中で、ゴールデンウィークと同じ交通規制を必要とするだろうということで打ち合わせが済みまして、ちょうどこの正面入り口のロータリーの下からは下りの一方通行となります。

それから、第1駐車場と第2駐車場は、完全に除排雪をしまして、受け入れをする準備

が整っておりますので、より多くの方々に、夏場並みの方々に来ていただけるような準備が整っている状況になっております。

それから、唯一なのですが、チューブスライダーは有料となっております。1人1回300円ということで有料化させていただいておりますが、この300円につきましては、ホッキョクグマの育児、繁殖の関係に活用させていただきたいという趣旨のもと、有料化させていただいておりますので、その辺のご理解をいただきながら運用させていただきたいと思っております。

先ほど園長から説明がありました連携事業の部分とまさに一体化して進めております。連携事業と一概に言っても、イベントだけではなくて、動物園そのものの活動にもご協力をいただいている企業もたくさんございますけれども、そのほかに季節ごとのイベントなどは企業協力をたくさんの方々にいただいておりますが、60周年を契機に年間の事業スケジュールをご提示させていただいて、サポーターシップとして各企業の皆様にご了解をいただきながら、これは今回は試行的に行っておりますので、今後、こういうご説明をして、年間のご協力をいただくということで、企業の皆様にご説明をさせていただいてご支援をいただける形をとれば簡略化、それと予算獲得の安定化というものにつながっていくと思っておりますので、これから持続的に動物園の活動を進めていくために必要な手法かなということで、今回、テスト的ではございますが、取り組みをさせていただきまして、今後、これがうまくいけば今後の企業協力をいただく手段の一つとして活用させていただければと考えております。

以上でございます。

○原田委員長 それでは、ただいまいろいろご説明をいただきましたけれども、中身が随分たくさんあるなという感じがしました。60周年事業計画案につきまして、ご意見をいただければと思います。

○林委員 恐らく、園長の専門のところだと思うのですが、円山動物園を特徴づけ際立たせる事業の中で、パンフレットの作成というものがあります。これは、60周年を記念するということでもいいと思うのですが、今、iPadを含めて、いろいろなICの情報でそこに情報化がどれだけされているかということがあります。印刷が悪いとか紙が悪いということは全然思っていないくて、むしろ、そういう集積をきちんと整理されるというか、ふだん委員長がおっしゃっているのですが、60周年を記念して、紙からシフトしましょうという話ではなくて、ITのいいところ、ICTのいいところは、今までの情報を集積して、一つの記録をして、それをいろいろな形で多様に出していけるということが今までのものと違うと思うのです。それをぜひ、園長はプロ中のプロですから、それを安くやりながら、企業にも応援していただきながらやることで、先進的な動物園の発信の仕方ができれば、私もメディアも応援したいと思っております。よく、何周年記念事業の何とかという紙だけができ上がるのはいいのですが、その後、そのデータはどこへ行ったのかということになると、紙であるという話になって終わってしまうのです。むしろ、それ

がいろいろなものに使えるのだということも含めてされれば、今後、いろいろなものに応用できると思いますし、我々も使わせていただけるとと思いますので、ぜひよろしくお願い致します。

○原田委員長 私もその考えに非常に賛成で、これはとてもコンパクトによくできていると思うのです。あそこにポスターも張ってありましたけれども、こういうものが円山公園駅や都心のいろいろなところに張ってあって、ただ張ってあるだけではなくて、これについてこれは何かという、これがそもそもARコードになっていて、これを携帯電話で写すと解説文がここにあらわれる、あるいは動物がちょろちょろしているのが見える、赤ちゃんを映しているのが見えると。こういうものをつくるのであれば、デバイスとうまくつなげていくという形にすると非常に広がりが大きくなるのではないかと思います。ですから、今回も園内の中にいろいろなサイン計画を変った形でやっておりますけれども、あれも書ける内容は非常に限られているのです。ですから、ここで何時に何があるというマークが全部ピクトグラムのようになっていて、動物の姿になっているので、それ当てると何時何分からえさやりタイムみたいな情報が流れてくるのです。

今まではバーコード方式しかなかったので、QRコードは何が書いてあるかよくわからないですけれども、今のARはマークそのもので、それを入力するだけで検索してデータをばっと出してくれるような仕組みのものです。まだ時間があるので、いろいろ試みをされていいのではないかと思います。まさにおっしゃるとおり、酒井園長は、その道の専門家でありますし、そういう可能性についてぜひともご検討いただければと思います。

○金澤委員 スノーフェスティバルは、それこそ雪まつりの第4会場でやるという話が出ていましたね。それがだめになった経過を説明してもらえますか。

○事務局（高橋調整担当課長） 実は、雪まつりの第4会場入りをねらいまして、実行委員会の皆様とも相談をさせていただいて、内々に了承をいただきながら、実は所轄の西警察署とも準備を進めていました。第4回会場となると、警備計画は非常に重要になってきます。特に初年度で初めての経験ですからどういうことが起きるかわかりません。ガードマンの配置、交通規制、そういったことを実施していただかなければなりません。そういうお話がありまして、そこに至らないように地道に事業を進めて、打ち合わせを進めてはいたのですけれども、実行委員会がすぐ目の前に迫っておりまして、実行委員会の最終日に計画書の提出が間に合わない状況になってしまいましたので、そこで、手を挙げたままにしておくということになれば全体の事業自体が進まないこととなりますので、従来どおりの協賛会場といたしますと。そういうことで、事業の方については一端整理をして、実行委員会側にはこちらから申し入れをさせていただいて、通常どおりの協賛会場入りとしますというお話をさせていただきました。

ただ、事業規模が縮小されたものではございませんし、西警察署の方からも、本会場入りはできなかったけれども、西署としても協力はするので、当初どおりの入場者数を確保できるようにお互い頑張りましょうと言っています。

そう言いながらも、これだけの事業をやりますと莫大な予算がかかりますので、企業の方々には協力をいただいたり、そういう進めている状況の中の経過報告をしている中で協力をしますということをお願いいただけた大きな企業も何社かあったのですが、特別会場入りができないということで、残念ながら五つくらい手をおろされた方がいまして、実は今も企業回りをしている状況です。ただ、大体めどはたちましたので、事業については完結できると思っております。

本来的には特別会場入りのレベルですし、実行委員会の多くの方々にはご了承いただけていたのですが、ちょっとしたイレギュラーがあつてつまづいてしまったというのが現実です。ただ、そんなことを振り返っているよりも、PRの方に力を入れて、小学校につきましては、全校生徒分のパンフレット、2回目、それから、協力をいただいている各社からの通知、それから、私たちも足で稼いでいるのですが、市内のホテル関係とか、宿泊のお客様方に対しての周知徹底とか、ジェイ・アールバスとの連携で社内刷りとか、交通局の連携で交通局ポスターとか、周知については、今、力を入れているところでございます。

それと、きょう、最終的には内覧会をして多くの取材陣の方々に取材をしていただきますので、これでかなり浸透していくのではないかと思います。そして、7日からオープンに備えていきたいという状況でございます。

○金澤委員 新聞には交通問題が前面に出ていましたね。警備の問題がね。

それから、このサポート制度の中で、市民等が各種業務をサポートする制度を構築するというのは、もう既に具体的なイメージを持っているのですか。

○事務局（高橋調整担当課長） これは、現在はまだ検討中ですが、要するに動物園ガイドボランティアという1種類だけのボランティア制度ですので、ガイドだけではおもてなし全体のバランスが難しいだろう、いろいろなボランティアの参加を希望される方もいらっしゃるでしょうということで、ボランティアの種類としてはいろいろ見きわめていかなければいけない、そういったところをボランティアの皆様とも相談をしながら酌み上げていきたいということで、これから検討を進めていきたいと考えております。

○金澤委員 きっと、いろいろなメニューが出てくるのだろうと思うのだけれども、多くの人に引き受けていただけないかなという気がするのです。一時期、ハードルが高いという話を私は結構聞いていたのです。ハードルが高いと、今まで応援していた人が、クレーマーまではいかないですけれども、いろいろな苦情なりをほかのところと言う状態にはまってしまうのです。それは困るなと思って見ていまして、そうすると、このサポート制度を構築するというのであれば、逆に言うと、今度は、メニューによるけれども、どんどん受け入れていくという姿に変わっていくのです。

○事務局（高橋調整担当課長） そこを柔軟にしていきたいと思っています。今、ガイドボランティアという形だけしかとっておりませんので、本当に適正な人数というのは、これから何年間かやっていって出てくると思うのですけれども、こういうところで活動したいという方々にどれだけ間口を広げるのか、受け入れはどの程度が適正なのかということ

を含めて検討してまいりたいと思っています。

○原田委員長　そこは、本当に大事なところだと思います。市民にとっての動物園というのは、市民が参加できる動物園という意味で、私もいつか聞いたことがあるのです。ガイドあるいはボランティアをやっていらっしゃる方に、その人を見ていると本当に動物園を愛していて、あの動物が大好きで、あれも大好きでみたいにはっきりしているのです。精いっぱいやっているつもりなのだけれども、動物園にはルールみたいなものがあって、何回のうち何回欠席してしまうともうやめてもらいたいみたいな意見が出てくるようなことを聞いて愕然としましたということで、その辺を少し、そういうボランティアの人たちにとっても都合があるわけで、忙しいときがあります。どうしても、そういうときに回ってくることもあるので、その辺はルールをやわらかくしてもらって、運用していただいて継続できるような形ですね。一たん、そういう人たちが去ってしまうと、それだけの人を探すのは結構大変になってきます。その人は、物すごいネットを持っているので、いろいろな人が同時にやめていってしまうということがあったようです。そういうことも含めて、私はもっともっと多くの市民の人たちが参加できるような体制整備をしていただきたいと思っています。

○事務局（酒井円山動物園長）　両方あるのだと思います。幅広く、薄く参加していただくところと、それぞれのボランティアの質を高めていって、やはり、土・日に固まってしまふわけですね。やはり、そうではないときにも参加していただきたいというこちらの意図もあるので、その辺をうまく組み合わせていくようなことをもう少しきめ細かく制度設定をしないと難しいかなという気がしています。

○服部副委員長　ボランティアの問題で、私からもつけ加えさせていただきます。

確かに、とにかく広く浅く市民を受け入れていくということはとても大事なことだと思うのです。その中に、もう一つ、ボランティアとしての種類の中に外国人の留学生、例えばですよ、通訳ボランティアを取り入れていくと。特に、海外から来ている留学生は必ず帰っていくわけですから、円山動物園のよさを母国へ帰ったときにいろいろな意味でPRをして、まさにいろいろな情報のかけ橋となってくれる可能性が強いわけですよ。

もう一つは、今、外国人が観光としてどんどん押し寄せてきています。さらに、中国から富裕層の来道が非常に見込まれています。札幌市としても、その中に観光を力づけようという位置づけにあるならば、ボランティアという部分でもその辺の考え方を持つべきかと思います。ですから、外国人留学生は、無事に入学すれば、大学の方へ呼びかければ、多分、いろいろな応募があるのではないかと思います。

そのために、ホームページの活用ということも、園内の放送あるいはパンフレット等の多言語化、あるいはインフォメーションの看板の多言語化ということを考えているのなら、当然、それはホームページ上の多言語化も考えていかなければいけないということということで、もう少し開かれて国際的なレベルに、今回、円山の存在意義を高める事業として取り組んでいるのであれば、なおのこと、その辺を少し取り入れられたら60周年にふさ

わしい事業になってくるのではないかと思います。

○原田委員長 3時35分ということでタイムオーバーになっております。ほかにいかがでしょうか。

○金澤委員 もう一点、いいですか。

この頭にまだ事業計画案とついているのですが、この案はいつとれるのですか。

○事務局（酒井円山動物園長） きょう、皆様からのものを盛り込んで案をとろうと思っています。

○金澤委員 そうだとすれば、先ほどJ Cの象の話がありましたね。あれは、まだ確定していないにしても、動物園は象にかかわりを持っていないわけではないでしょう。そうだとすれば、どこかの中に盛り込まれてもいいのではないかと思います。60周年事業としてね。前は、全然発表になっていないときの話しでしたけれども、今は、決定ではないけれども、マスコミにあれだけ大きく出てしまっている事業です。これだと、動物園を知らないような世界に近いから、連携して、J Cがそういう企画を持って、その場合には動物園でレンタルで来ますくらいの表現があってもいいかなという気がするのです。

ほかの委員はどう思われるかわからないけれども、あれだけ新聞なりマスコミで大きく取り上げていて、これだと動物園側は受け皿として全くないようなスタンスに見えてしまうのです。

○服部副委員長 その点について、市民動物園会議に、象についての具体的なインフォメーションはどれくらいのレベルで出てくるのでしょうか。

○事務局（酒井円山動物園長） 正直に言いまして、今の時点においては、J C側の海外の方との交渉がきちんと詰まっている話ではないのです。こういう中でどういう形で書くのかというのは、非常に書きづらい部分ではあるのです。

それで、資料の60周年記念講演の中に「生物多様性・ホッキョクグマ・ゾウ等」と書いてありますけれども、我々としては、J Cがそういう形で象を持ってくるということはどう消化していくか、意義づけしていくのか。これは、市民に対して、環境であったり、アジアの文化であったりということを我々としては学ぶ場として、彼らの事業と一緒にやっていける意義のあるものにしていきたいということです。

○金澤委員 そういうことを言っているのかなと思って、先ほどずっと説明を聞きながら読んでいたのですが、これだと記念講演で象等に関する連続講演、動物園の歴史を伝える事業、展示、映像などを実施するということですから、ちょっと理解に苦しむ表現だと思うのです。

○事務局（高橋調整担当課長） 本当に、まだ不確実なところが余りにも多くて、委員の皆様にもご説明に至るところまでいけていないのが正直なところです。これは、国内の状況を見ていただいて、お調べいただければわかるかと思うのですが、東北サファリが象の導入を目指しておりまして、タイに申請をしてということをやっている、比較的簡単に事が進むだろうという中で、現地の方と日本の代表者で調整をしております。そ

こそちゃんと進むでしょうと。そういう状況がありましたので、当然、J Cもそれに近い手法をとって調整を開始されていたということを知っています。ただ、現実、今になっても許可がおりていなくて、既に1年以上経過してしまっています。実は、タイの政情が不安定であって、年度内くらいに総選挙があって、どういうところが政権を握るかわからないということがあるために、政府機関自体の事務方が全く機能していないというのが現状らしいのです。そういうことがあって、今、J Cも非常に悩まれているところです。実は、タイをベースにしている部分としては、お互いにかなり話し込みをしていますので、当然、動物園側の理念、J Cの理念、そこにタイから導入をしたとしたらこういった部分が想定されるでしょうという経費の見込みで全部お互いに出し合って、それについては大体合意できるような地点までは到達しかけていたのです。ただ、政情が不安定な部分でその予定が立たないということで、お互い60周年の期間中にそういったものが整理できるのかということで、今、J Cが逆に悩まれているんじゃないかと、いろいろ幅広く手法を検討したいということをお願いされています。

そこにあわせて、私たち動物園としても、決してこれを否定する話ではございませんので、お互いに理解をし合える理念を持っていますので、協力をしていきたいと思いますが、ここは行政が持っている施設ですので、事と次第によっては違反したものを持ち込まれても困りますし、正しいルートで正しい理念のもとに連れてこられるということが見えないと、なかなか説明できないという状況です。鋭意、かなり努力をされていらっしゃいますので、新たな解決策が見えてくるかと思いますが、実は、今、その提案をお待ちしている状況です。

○原田委員長 J Cという出資者が検討中であるので、動物園としては、動物園みずからがそれを広報する立場に今はないということですね。

○事務局（高橋調整担当課長） そうですね。後押しはしたいと思いますが、彼らの状況が整わないときに、まるで私たちがちょうだい、ちょうだいと言っているような状況に追い込むこと自体もよくはないと思います。ですから、本当にお互いの期が熟すのを待っているのが正直なところです。

○服部副委員長 きょうの市長のごあいさつの中に、より具体的な文言が入っていましたね。1カ月に2頭展示できたらいいなど。いいなというニュアンスの言葉を言っていましたけれども、1カ月、そして2頭という具体的なものがメディアの中に入っていますので、この市民動物園会議の中でも何らかの形で早目にもんでいけるように、説明をいただければと思います。これは相手の国の次第でございますから、無理することはなく、しかし、あきらめないで進めていただければと思います。

○事務局（酒井円山動物園長） いずれにしても、象の問題については市民動物園会議の中できちんと議論しなければならないですし、そのために、昨年、担当の係長が北方圏での象の飼い方という調査もきちんとやっておりますので、まさに60周年の中で象というものをテーマにして、我々が今まで調べてきた内容を皆さんにお諮りして、もう一度

議論していただく場をつくらなければならないと思っています。ただ、より具体的にイメージもわきやすいし、市民の皆さんと、JCのこういう話が動けば、より推進力が増すのではないかと我々とらえているというふうにご理解いただければと思います。

○服部副委員長 その辺が具体化された段階で、さらにそれを付加していくという形にとどめておかれた方がいいのではなからうかと思えます。

○事務局（酒井円山動物園長） ですから、この記念講演の展示のところは、金澤委員のお話を受けて、もう少し別出しにして、よりわかりやすくするということはあるかもしれません。

○原田委員長 ほかにご意見はありませんか。

○堀田委員 時間も押していますので、手短に申します。

ITの絡みで、そちらのあるのが図書コーナーで、皆さんが観覧されるものだと思うのです。多分、主に動物園にかかわるものが書かれていると思うのですけれども、それをもう少しわかりやすく各動物のところに本マークをつけるとか、子どもさんが平日に来られたときに、ここに立ち寄って、広くていい場所ですので、待つ時間とか、トイレの交代の時間に、もう少し利用ができれば楽しい広場になるのではないかと思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

冒頭の基本的な考え方のところ、60周年事業を集中取り組み期間の総括、最終年であるからという文言がございます。この総括をどのように60周年事業計画として取り上げるのかというのはかなり重要なことではないかと思うのです。市民動物園会議の委員の皆様がこの4年間やっていただきましたし、リスタート委員会から数えると7年目に入るのでないでしょうか。そういう経緯もございますので、これまでどういう構想が立てられて、それについて、この項目については予想以上に、計画以上にできたよとか、これについては計画どおりにうまくいっているとか、これについては手がついていなかったとか、きちんと評価をした上で次の案が成り立つのではないかと思うのです。そういう意味では、それをどんな形で見せるのか、報告書みたいなかた苦しいものにして人は見るのか、あるいはホームページの中を開いたらそれがどんどん見えてくるようなものがあるのかなと思います。それを記録しようと思えば、とじれば報告書のように。そういうものを動物園サイドとしてはきちんとつくられておいて方が、はっきりした踏み台にもなりますし、いいのではないかと思います。

○事務局（酒井円山動物園長） ありがとうございます。

まさにそのとおりでして、金澤園長の時代からさまざまな新しい試みをやられて、今もその大部分は引き継いでいます。先ほど申しましたように、やりながら少しマンネリではないかと思うものも出てきています。これは、我々の感覚なのです。まさに、総括、検証、それをサービスする側としてお客様はどういうふうにとらえているのか、一緒に連携している企業の方々がそれをどう評価されているのかということもきちんと形にできていないのです。既にやり始めていますが、この60周年の総括の中でそれを形にして、数字にし

て、では次にどうするのか、継続するのか、見直すのか、また別なものに変えていくのかということを検証しながら方向性を出していきたいと思っています。

○原田委員長 スノーフェスティバルができるようになったというのは、大変なことではないかと思うのです。そういうものもこの何年かの成果としてあらわれてきているというか、実力を持ってきたなというふうに思うのです。それも、一つのイベントの一点集中ということではなくて、年間の中でこれが冬バージョンとして出てきているというのはなかなかいい考えだなと思います。そういうものがうまく定着していくと、本当にこれからの発展は予想がつかないほど拡大していくかもしれないという期待にもつながっていくのではないかと思います。

そろそろまとめたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

○田中委員 せっかくこういうすばらしい会場にできましたので、できましたら円山動物園の方でもツイッターで発信してはどうかと思います。そうすると、プログとは違った感じで広がって、道内だけではなく、ひょっとしたら全国にもつながるかもしれませんし、ホッキョクグマの赤ちゃんのお披露目日もツイッターで発信されれば、道外の人にも広く知れ渡って、わかりやすいと思うので、お願いいたします。

○いがらし委員 イベントで誕生会がマンネリ化してきた感が出てきているとおっしゃったのですけれども、私たちの業界に偉大なるワンパターンという言葉がありまして、とりあえずきちんとやってあげるといえるのは、新しく見る人がふえてくるということで、要するに、その日にきちんとやってあげるといえることを大事にして、そんな奇をてらう必要はないと思いますし、あれこれ考えて苦しむことはないと思うのです。特にお誕生会なんかはいいと思います。

○事務局（高橋調整担当課長） 実は、アニマルファミリーというメンバーの入れかわりの少ないところなのです。一般の方を対象としているドキドキ体験というのは、お客様の中でも新陳代謝が結構あるので、結構いけるのですね。本当に偉大なるマンネリでも受けるものはずっと受け続けるというのは私も感じています。ただ、アニマルファミリーの方で、リピーターを続けていらっちゃって、始まる前に「またこれね」という声が聞こえると、胸のあたりが痛いのです。

○いがらし委員 でも、水戸黄門だってそうではないですか。胸を痛める必要ないと思いますよ。とてもいいことをやっているのだから、胸を張ってください。

アニマルファミリーに向けてやっているわけではないですから、アニマルファミリーは大事にするという姿勢さえ崩さなければいいと思います。誕生会は偉大なるワンパターンで続けていただいて、苦しまないでください。

○原田委員長 アニマルファミリーの5,000円の見返りサービスというのは、それで非常に苦勞されているのはわかるのですけれども、大学で、実はもうレポートが届いているのではないかと考えているのですが、アニマルファミリーの人たちにアンケートをとっているのです。それで、ご意見を集めた結果、意外と好評なのです。やめる人はやめる人

で、これはいいのだけれども、やめると言ってやめているわけです。そこで、また新陳代謝ということを考えれば、それはそれでいいのではないかと思います。ただ、私がずっと言い続けているあるサービスについては、それをやれば何も手間がかからないでどんどんファミリーがふえていくはずなのだけれどもと言いたいところですが、それはちょっと置いておきます。

○服部副委員長 もう一つは、入会しやすいようなシステムをつくっていかねばいけない、ここが拡大していかないネックの一つではなかろうかと思います。

○原田委員長 コンビニで入れてしまったら、もっともっとふえるのではないかと思います。

○服部副委員長 それは、市民動物園会議の中でも議論の一つとして位置づけていかねばいけないことだろうと思うのです。

○原田委員長 私は、このファミリーという考え方を崩してはいけないと思います。いがらし委員のおっしゃったとおり、淡々と、そんなに派手にしなくても、ファミリーは続いていくところに価値があるのです。

ほかによろしいでしょうか。

3. 閉 会

○原田委員長 それでは、時間が大分超過しましたが、いろいろご意見をいただきまして、ありがとうございました。

これで、第11回市民動物園会議を終了いたします。

ありがとうございました

以 上